

編集後記

『語文と教育』第二十九号をお届けいたします。

本号は、国語科教育（大学を含む）二編、国文学、漢文学各一編、国語学（日本語学）二編、日本語教育二編の計八編で編集しました。いずれも、それぞれの問題に真摯に立ち向かった論考です。皆様方のご批評を賜りましたら幸いです。

戦後七十年の節目となる平成二十七年。悲惨な「いじめ」の報道は後を絶たず、少子高齢化には歯止めがかかりません。猛暑やゲリラ豪雨、火山噴火などの自然災害も頻発し、うつすら見えかけたエネルギー問題解決の糸口は、いつの間にか遠く見えなくなってきました。相変わらず経済と効率ばかりが優先されて、ついに人文・社会科学系の学問は、国立大学の邪魔者である

かのような扱いをされるようになってきました。

先の見えない逆風の中ではありませんが、こんな時こそ、次代を担う子どもたちに向かつて、胸を張って夢を語っていきたいものです。そのために、皆様方とともに自らの立ち位置を見極め、しっかりと前を見据えた、地道で着実な教育と研究を進めたいと考えております。国語（日本語）に関する教育と研究に携わる皆様方の交流の場として、『語文と教育』誌がますます充実していくことを期待しております。会員の皆様さんのご投稿を歓迎致します。最後にりましたが、この一年も多くの大学・機関・研究会等より本学会宛に紀要・会誌等の研究資料をご寄贈いただきました。大切に保管し、教育・研究に活用させていただきます。

（原記）

語文と教育 第二十九号

平成二十七年八月三十日印刷
平成二十七年八月三十日発行
（非売品）

編集人 鳴門教育大学国語教育学会

発行人 鳴門市鳴門町高島字中島七四八

（〒七七二一八五〇二）

鳴門教育大学

言語系コース（国語）内

鳴門教育大学国語教育学会

会長 小島 明子

印刷所 協徳島印刷センター